

### 3 中部国際空港の二本目滑走路を始めとする機能強化の早期実現について

(国土交通省)

#### 【内容】

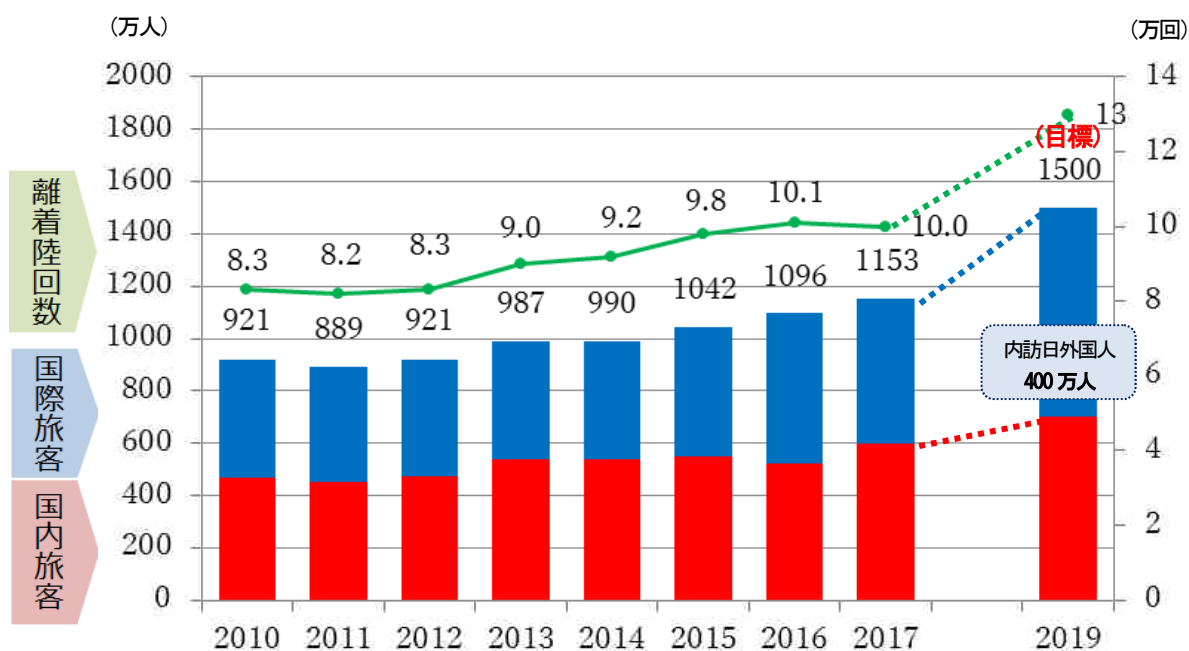
- (1) 地域と連携して、中部国際空港の機能強化・フル活用に必要な、物流を始めとした調査検討に取り組むこと。
- (2) 訪日プロモーション地方連携事業等インバウンド旅客の増加に向けた施策を始めとする航空需要拡大の取組を一層推進すること。
- (3) 急増する訪日外国人への対応、及び、テロ対策強化のため、先進的な保安機器の導入を進めるとともに、C I Q体制の充実・強化に取り組むこと。
- (4) 空港利用者の利便性向上、及び、さらなる増加が見込まれるF I T（個人の外国人旅行者）にしっかり対応するため、引き続き、東海三県始め中部地域の主要都市、観光地から空港への道路・鉄道等のアクセスの充実に取り組むこと。

#### (背景)

- 中部国際空港は、2005年の開港以来14年目を迎え、国際拠点空港として、我が国の航空輸送の発展の一翼を担い、また、モノづくりを中心に我が国の経済をけん引する中部地域の重要な社会インフラとして、国内外の人・モノの交流に大きく貢献してきた。昨年度は航空旅客数1,153万人、発着回数が10万回と堅調に推移する中、今年度は過去最高となる1,300万人の航空旅客数と11万回の発着回数を見込んでおり、さらに、2019年度までに訪日外国人数400万人を含む航空旅客数1,500万人、国際航空貨物取扱量24万トン等の達成を目指している。地域としては、その達成に向けて、航空需要の拡大、航空ネットワークの充実にに向けたエアポートセールスや昇龍道プロジェクトの推進など、一丸となって取組を進めている。
- この地域では、2019年のG20サミット・外務大臣会合、2020年のワールドロボットサミット、2026年の第20回アジア競技大会の開催が決定している。加えて、2023年の技能五輪国際大会の招致活動を、今、政府を挙げて取り組んでいただいているなど、中部地域が世界に向けて躍動する機会が増大する中、空港の果たすべき役割が重要になってくる。また、空港島内では、LCC用の新ターミナルビルや複合商業施設「フライトオブドリームズ」、愛知県による国際展示場の整備などが進められており、国際交流拠点としての機能を着実に備えつつある。
- 中部国際空港は、現在、深夜早朝時間帯にLCCや貨物便が利用されている中、滑走路が1本であることから、滑走路等のメンテナンス時間の確保が困難となることに加え、供用開始から13年が経過したことにより大規模改修の時期も迫り、ピーク時間帯を含め受入制約の発生が現実味を帯びてきた。24時間運用の国際拠点空港として、二本目の滑走路を持たない限り、これ以上の役割を果たせない事態が懸念される。  
また、この地域は、鉄道・道路・港湾など、広域的な交通、物流ネットワークの結節点であることから、中部国際空港及び名古屋港が、社会インフラとしてリダンダンシーとしての機能を持つことは、国土強靱化の観点からも重要である。
- 今後、リニア中央新幹線の全線開業に伴うスーパー・メガリージョン形成のインパクトを生かし、我が国の成長エンジンの一翼として、社会・経済活動のグローバルな交流を支えていくためにも、中部国際空港の二本目滑走路を始めとする機能強化の早期実現が不可欠である。こうした中、空港沖では、「名古屋港で発生する浚渫土砂の新たな処分場」の有力な候補地として、現在、計画が進められているところである。

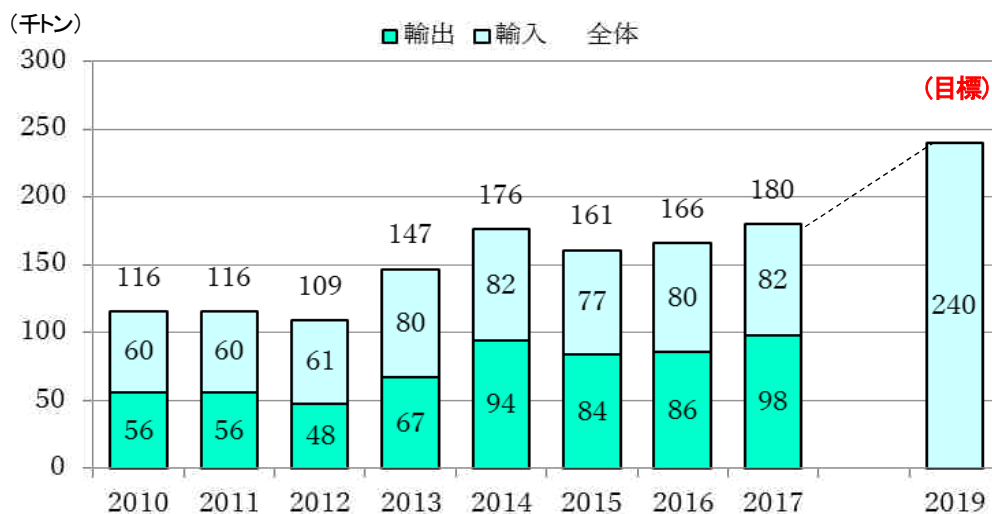
( 参 考 )

【中部国際空港の旅客数・離着陸回数の年度別推移】



中部国際空港株式会社作成資料を基に作成

【中部国際空港の国際航空貨物取扱量の年度別推移】



中部国際空港株式会社作成資料を基に作成

【航空需要拡大に向けた地域の実施状況】

愛知県	訪日外客誘致に向けたプロモーションと受入態勢を強化 海外でエアポートセールス等を実施 重点路線維持・拡充のためアウトバウンド需要の推進対策を実施
中部国際空港 利用促進協議会	旅行商品造成を目的とした海外旅行事業者等の招聘、海外旅行博への出展 など、インバウンド需要の拡大事業を実施 空港の二次交通充実に向けたバス路線に対する支援等を実施 エアラインのPR支援や就航先と協力したプロモーションを実施 教育旅行の下見支援や大学との連携による情報発信など、若年層のアウトバ ウンド需要の拡大事業を実施 輸出入貨物を増やした荷主・フォワーダーへの支援やトラック共同輸送事業 等